

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

「天皇は超然と天空に輝く太陽…」 自民党軽井沢セミナーの中曾根発言すな

中曾根は、八月二十九日、自民党の軽井沢セミナーで講演し、今後の自民党政治の基本姿勢を明らかにした。この講演での際立った特徴は、その中心的な内容のほとんどが天皇制を全面的に称賛し、日帝の国家支配の中心にすえることの言明にうめつくされていることである。

天皇を頂点に戦争へ突き進む中曾根

中曾根は、いよいよ本格的に天皇制を頂点にすえた強権的な支配体制に戦争国家づくりのり出したといわなければならない。

中曾根がかつて「行革で大掃除して天皇制を安置する」と語ったように、現在、強引に進められている国鉄・教育・防衛費一%突破などを中心とした「戦後政治の総決算」攻撃の根幹にいよいよ天皇制を位置づけようとしているのだ。

中曾根は、この講演のなかで、「国民が運命共同の意思をもち、世界の中で主体性を示し、協力し、国家の統一をはかるには天皇の存在が大切。天皇を中心に団結していく」「天皇は平和主義者、戦後の天皇は無一物、無尽蔵、無限大の広さ、親愛感、公正無私という普遍性を見いだした」

「天皇は超然として天空に輝く太陽のような存在」「国旗や国歌（君が世に天皇の世）に異論をはさむのは国民の自然の感情に反している」と語り、このような「ナショナリズム（民族主義）のためにちゅうちょしてはならない」と反動的な檄を発しているのである。

デマとペテンで天皇制を美化

さらに、また、当面「財政面での応分の負担」とはしているものの「ペルシャ湾問題での自衛隊の掃海は武力行為ではない」と公然たる海外派兵を当然のこととして口にしてしているのである。

この中曾根講演の内容は、侵略戦争遂行のイデオロギーの骨格となった「教育勅語」「八統一宇」「大東亜共栄圏」の思想と何らかわることのない超国家主義である。

「超然と天皇に輝く太陽」という何ら理性的な判断も根拠もない神聖化によって、これに反対し、逆う者は「非国民」であるというのだ。しかも、国民の血税によって特別の予算をもち、特別の所得をもち、特別の警察をもち、皇居をはじめ、日本最大の資産をもつ天皇を「无一物、公正無私」などとデマとペテンで徹底的に美化し、賛美し、やはりこれに「異論をはさむ者は国民の感情に反した」非国民だというのである。

天皇制を断じて許すな

そもそも天皇は、第一級の戦争犯罪人である。日帝が泥沼のような侵略戦争に突入し、次々と戦火を拡大していくその全過程でもっとも好戦論者として、戦争の指揮を天皇が自らとつたことは歴史的に実証された事実である。天皇の名の下に、二千万人のアジア人民が虐殺され、戦争にかりたてられ、広島・長崎に原爆が投下されたのである。われわれは、天皇・天皇制を断じて許すことはできない。

また、この天皇制を今また戦争のために国家支配の中心にすえようとする中曾根を許す訳にはいかない。



大量解雇問題
全駐労きょう24時間スト

8月20日、全駐労沖縄地本はマリン支部を中心に、在沖海兵隊のクラブ労働者303人の解雇撤回を求め、第一波24時間ストをうちぬいた。米軍は沖縄で横暴の限りをつくしている。沖縄をこのような基地の島として売り渡した張本人こそ天皇である。天皇は、沖縄戦を指示し15万の犠牲を強いた上に、1947年、マッカーサーに下記の書簡を送り、沖縄とひきかえに戦犯となることをのがれたのである。

天皇を拒否する沖縄



「(天皇は)アメリカが沖縄を始め琉球の他の諸島を軍事占領し続けることを希望している。その占領はアメリカの利益になるし、日本を守ることもなる。……アメリカによる沖縄の軍事占領は、日本に主権を残存させた形で、長期の——二十五年から五十年ないしそれ以上の——戦争をするという據地のの上になされるべきである」